

産業建設委員会 行政視察報告書

1. 視察期間

令和6年10月7日（月）10時～12時

2. 視察先

長良川木材事業協同組合（岐阜県郡上市白鳥町）

3. 視察項目

地域の製材機能について

4. 視察目的について

- （1）産業建設委員会では令和6年7月に秋田県能代市の中国木材株式会社の能代工場を視察した。同社が岐阜県内にも拠点を設けていたことから長良川木材を訪問。
- （2）政策提言に向けて、木のまちづくりを推進するにあたって、あるべき製材機能を検討する。

5. 視察内容

（1）施設概要

①敷地面積：100,500平米

②事業内容：国産材（杉、桧）の製材・乾燥・加工・出荷業務

③従業員：64名

地元採用者：約40名（約70%）

女性8名：（約13%）

派遣社員：13名（約21%）

（2）設立経緯

旧長良川ウッドの拠点に中国木材が進出。長良川木材事業協同組合を設立し、旧長良川ウッドの組合員も参画し設立

（3）組合員

中国木材とその関連会社、郡上森林組合、岐阜県森連、鷺見製材

（4）製材量

2021年度：75,225立米

2022年度：83,240立米

2023年度：75,531立米（杉：62,247立米、桧13,284立米）

2024年度（見込）：78,000立米

(5) 原木仕入先

郡上森林組合 (38%)、岐阜県森連 (62%)



【質疑応答】

1. 給与水準は

- ・母体の中国木材の給与ルールに沿って、グループで基準を統一している
- ・採用力強化のためには、働く環境、給与水準を改善させる必要性は理解
- ・9月の採用実績は0
- ・地元の採用は苦戦中
- ・従業員のうち10名が外国人。名古屋の派遣会社から派遣してもらっている。住居は派遣会社が基本的には手配（一部社宅を利用）

2. 再造林への取組みは

- ・組合員・県森連の取り組み有り
- ・社内の山林管理課（郡上八幡）が再造林を担当
- ・中国木材として下呂市、郡上市、高山の山林を所有し、現在は日本で3番目の山主に

3. 森林資源の保全に必要な切る・使うの仕組み
 - ・皆伐・再造林だと考える
 - ・高齢化した木は二酸化炭素吸収率が低下する
 - ・木質バイオマスの燃料も不足気味である
4. 広葉樹に対する取り組みは
 - ・長良川木材での取り扱いはなし
 - ・森林組合、県森連から納品される丸太は杉・桧のため、間伐/皆伐過程で出てくる広葉樹の取り扱いについては不明

【考察】

1. 中国木材能代工場同様に長良川木材でもほとんどの製材工程が自動化され、最先端の技術が導入されていた。製材規模も高山市の森林組合の3倍前後を誇り、事業規模の観点では太刀打ちできない。
2. 針葉樹の製材においては徹底的な合理化のもと取扱量を増やす中国木材のアプローチが数少ない採算がとれる製材のモデルなのかもしれない。
3. 一方で工業化の枠に収まらない広葉樹については、全く異なるアプローチが必要であり、中国木材のような大手資本は参入の意思がないことが確認された。
4. 高山市においては川下における地域の広葉樹ニーズが高いことから、製材機能を川中の業務と切り離すことはせず、川下における高付加価値化のために川上-川中-川下が連携をとる仕組みが必要なのではないか。
5. 各工程の枠を越えた連携を促すためには、飛騨市の広葉樹活用推進コンソーシアムのような取り組みを行政としてもバックアップする体制が必須であり、高山市としても広葉樹活用の取り組みを推進することは自治体横断の取り組みへと発展させるためには必要だと考える。